

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成31年2月14日 (2019.2.14)

【公表番号】特表2017-501309(P2017-501309A)

【公表日】平成29年1月12日 (2017.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2017-002

【出願番号】特願2016-560612(P2016-560612)

【国際特許分類】

C 2 1 B 9/00 (2006.01)

【F I】

C 2 1 B 9/00 1 0 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年12月27日 (2018.12.27)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

格子積みを有する円筒状チャンバ、

前記格子積みの上方に配されており、円筒状部分と、当該円筒状部分の上方に配されたテーパ部分と、当該テーパ部分の上方に配され、ドームの上方に配された予燃焼室に連通する円筒状スロートとを有するドーム、及び、

前記予燃焼室の側壁に配された空気及びガスを供給するためのチャネルを含むシャフトレス熱風炉であって、

前記ドームの前記円筒状部分の径に対する前記円筒状スロートの径の比率が 0.31 ~ 0.41 であるように構成されていることを特徴とするシャフトレス熱風炉。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0003

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0003】

延長された内部及び外部の燃焼チャンバ（シャフト）を有する熱風炉は知られている（ロシア国特許第 2177040 号又はロシア国特許第 77865 それぞれの図 2 を参照のこと）。こうした燃焼チャンバは、熱風炉の内部又は外部のスタックに配され、格子積みの上方のドームに連通している。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

VNIIMT のシャフトレスストーブが知られている（ロシア国特許第 926017 号を参照のこと）。これは、格子積みを有する円筒状チャンバと、格子積みの上方のドームと、ドームに連通し、ガス及び空気の供給チャネルを底部（ベース部）に有する予燃焼室（燃焼チャンバ）とを有するものであり、空気供給チャネルは、ストーブの中心線に平行

に方向付けられ、ガス供給チャネルは、空気供給チャネルに連なるようにストーブの中心線に垂直に方向付けられている。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0007

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0007】

提案された熱風炉に最も近いものとして、具体的には、格子積みを有する円筒状チャンバと、格子積みの上方に配され、円筒状部分を有するドームとを有するシャフトレス熱風炉が挙げられる（ロシア国特許第65890号を参照のこと）。ドームはさらに、円筒状部分の上方に配された、（例えば、円錐状〔ロシア国特許第65890号〕又は球状〔ドイツ国特許第318068号〕）のテーパ部分と、テーパ部分の上方に配され、ドームの上方に配された予燃焼チャンバに連通する円筒状スロートとを有する。予燃焼チャンバの側壁には、ガス及び空気の供給チャネルが設けられている。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

この問題を解決するために、格子積みを有する円筒状チャンバと、格子積みの上方に配されており、円筒状部分と、当該円筒状部分の上方に配されたテーパ部分と、当該テーパ部分の上方に配され、ドームの上方に配された予燃焼室に連通する円筒状スロートとを有するドームと、予燃焼室の側壁に配された空気及びガスを供給するためのチャネルとを含むシャフトレス熱風炉は、ドームの円筒状部分の径に対する円筒状スロートの径の比率が0.31～0.41であるように構成されていることを特徴とする。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0017

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0017】

シャフトレス熱風炉は、格子積み 2を有する円筒状チャンバ 1、及び、格子積み 2の上方に配されており、円筒状部分 4 と、当該円筒状部分 4 の上方に配されたテーパ部分 5 と、当該テーパ部分 5 の上方に配され、当該ドームの上方に配された予燃焼室 7 に連通する円筒状スロート 6 とを有するドーム 3 を有する。予燃焼室 7 の側壁 8 には、空気及びガスを予燃焼室 7 に供給するためのそれぞれのチャネル 9、10、11、12 が配されている。シャフトレス熱風炉は、ドーム 3 の円筒状部分 4 の径 D_2 に対する円筒状スロート 6 の径 D_1 の比率が0.31～0.41であるように構成されている。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

格子積み 2の加熱周期には、燃焼空気が、入口 15 を通じて環状のコレクター 16、それから供給チャネル 11、12 を通じて予燃焼室 8 に供給される。また、ガスが、入口 13 を通じて環状のコレクター 14、それから供給チャネル 9、10 を通じて予燃焼室 7 に供給される。ガス及び空気が混合されると、この混合と予燃焼室 7 の加熱した内壁 8 との

間の反応により、予燃焼室 7 の上部でガスが着火する。ガス / 空気の混合による着火に必要とされる予燃焼室 7 の内壁の温度は、格子積み 2 内で加熱された空気を出口 17 を通じて熱風炉から排出するブロー周期において、予燃焼室 7 の内壁を加熱することによって得られる。格子積み 2 の加熱周期には、燃焼物質は、そこを流通して熱風炉から格子支持システムを通じて組み合わせ煙突（図示せず）に流出する。